



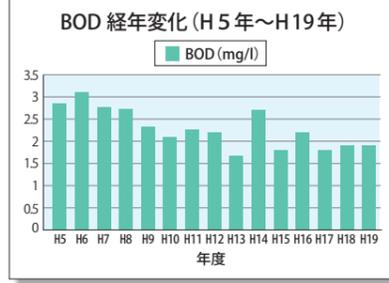
# みんなで作ろう 肝属川の水環境 6月は「環境月間」です

6月5日は、国連が定めた「世界環境デー」です。この日は、日本でも「環境の日」と定められ、6月を「環境月間」としています。そこで、私たちの生活の一部として親しまれている肝属川の水環境について考えてみませんか。

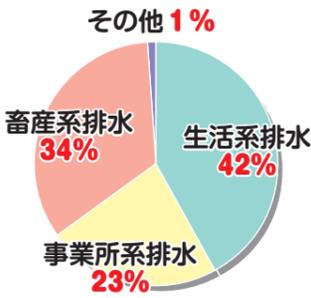
**BOD**とは、河川の汚れを表す指標です。数値が低いほどきれいな川であり、高いほど汚れているといえます。

めやす

BOD 値	生息できる魚
BOD 1以下	ヤマメ・イワナ
BOD 3以下	サケ・アユ
BOD 5以下	コイ・フナ



生活系排水とは、洗濯の洗い水、揚げ物等をした後に出る廃食用油や流し台から出る洗剤などがあります。この中でも、川に流れたときに汚れの大きな原因になるのが廃食用油です。廃食用油は、肝属川の水質やそこに生息する生物にとって大敵です。流し台は、川につながっていることを認識し、絶対に廃食用油を流さないようにしましょう。



肝属川の汚れの原因  
店舗や工場から排出される事業所系排水、畜産施設からの畜産系排水、一般家庭から発生する生活系排水の流入が肝属川の汚れの主な原因となっています。肝属川の汚れの原因の約42%は、私たちの日ごころの生活から出る生活系排水です。

- 環境出前講座を行います
- 肝属川の水環境について
- 廃食用油石けんについて
- ウミガメについて
- 地球温暖化と酸性雨について

肝属川は、その源を高隈山系御岳（標高1,132m）に発し、鹿屋市を貫流して、始良川、高山川、串良川等を合わせて肝属平野を流下し、志布志湾に注ぐ、幹線流路延長34km、流域面積48.5km<sup>2</sup>の日本最南端の一級河川です。  
また、肝属川流域は、湿度が高く温暖であるため、非常に生態系が豊かで、オイカワやタカハヤ、ヤマセミ、ゴマグサ、カナビキンウなど、およそ2,700種類もの動植物が生息しています。  
心のふるさととして安らぎを持てる肝属川を次世代に残すために、今できることに取り組んでみましょう。



廃食用油ポスト

### 私たちにできること

- お皿についた少量の油污れはふき取ってから洗いましょう。それ以外の廃食用油は、廃食用油ポストへのリサイクルを心がけましょう。もし、持ち込めないときは、古紙に吸わせるなどして、燃やせるごみに出しましょう。
- お風呂の残り湯などは洗濯水になるべく活用しましょう。洗濯物を洗うときは、適量の洗剤を使いましょう。
- 川を汚さないために、ごみのポイ捨てや不法投棄等は絶対やめましょう。



答 廃食用油石けん

問 市では、回収した廃食用油を、どのようなものにリサイクルしているのでしょうか？



答 3,000ℓ (約お風呂10杯分)

問 廃食用油が大量に1杯(10ℓ)川に流れたら魚が住めるようになるために、どのくらいの水が必要なの？

### 環境クイズ

### 肝属川に生息するいきもの

- オイカワ**  
全長約150mm。背中は灰青色、体側から腹側は銀白色で、体側に淡いピンクの横斑が数本入るのが特徴です。
- タカハヤ**  
全長約100mm。体色は黄褐色又は灰褐色で、背面は濃くはつきりとなるものが多いのが特徴です。
- ニホンアカガエル**  
体長約60mm。体色は、鮮やかなだいたい色をしており、水にはあまり入らないのが特徴です。
- メダカ**  
全長約40mm。体色はこげ茶がかかった灰色で、メダカの種類であるクロメダカは絶滅の恐れがあります。